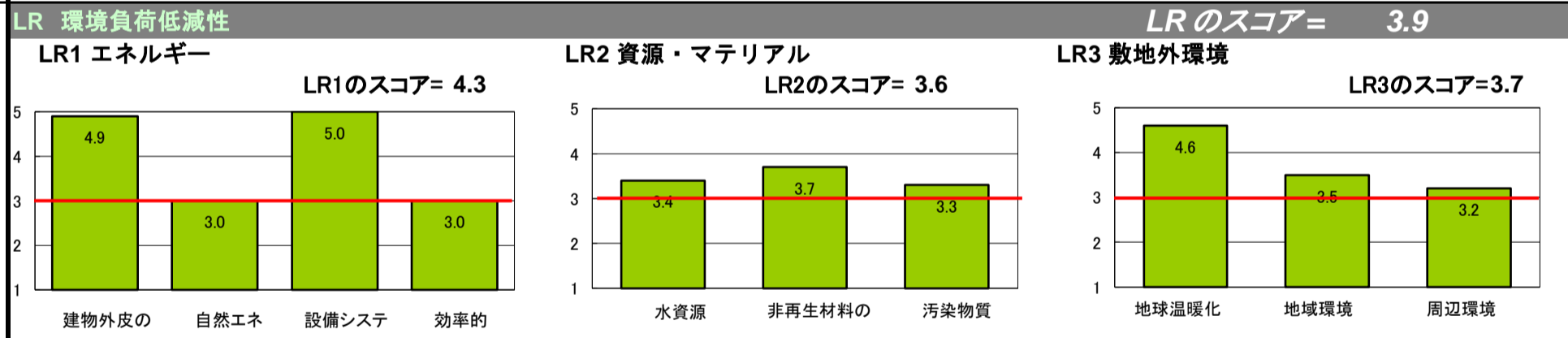
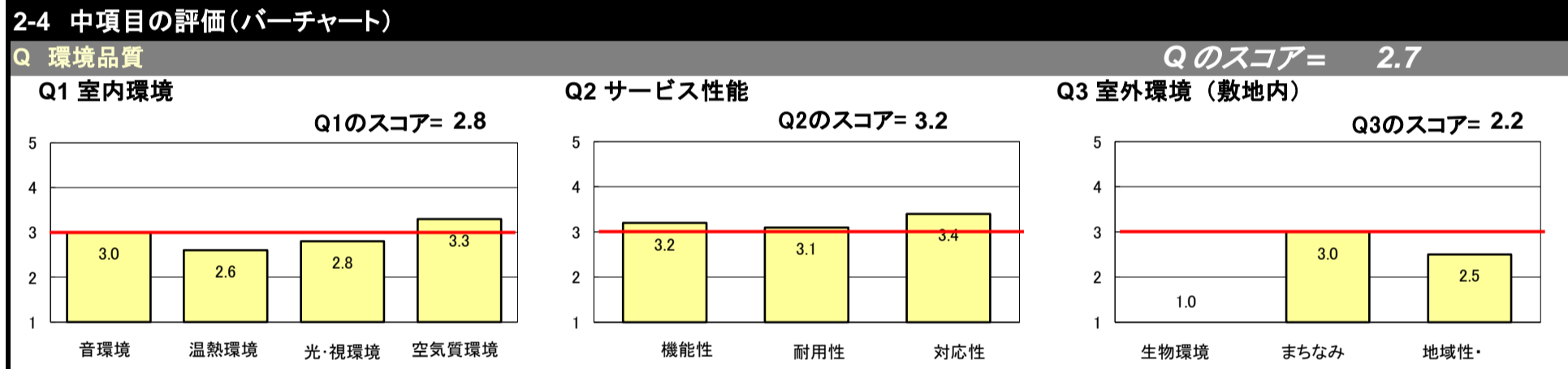
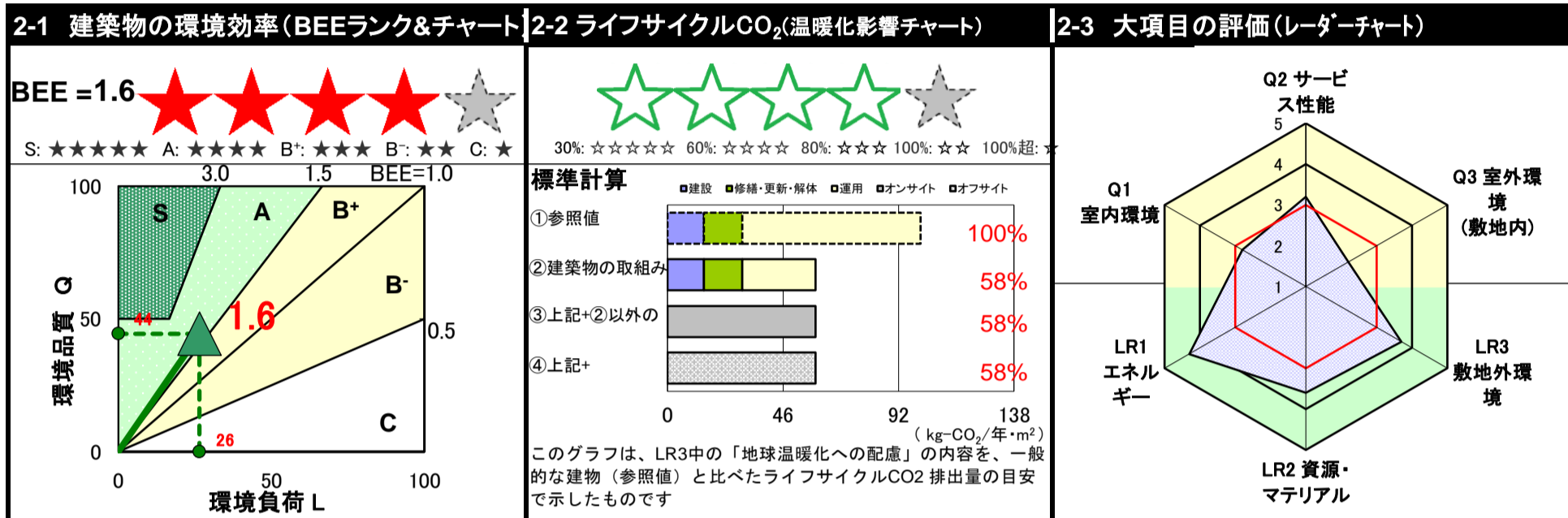


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)竜製作所新工場	階数	地上3階
建設地	愛知県大府市北郷町清水7-30-1, 36-2, 36-5, 36-6, 105-1, 105-2, 105-3, 105-5, 105-7	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	120人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	事務所, 工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年5月 予定	評価の実施日	2023年3月1日
敷地面積	5,871 m ²	作成者	市川 浩之
建築面積	2,969 m ²	確認日	2023年3月1日
延床面積	6,166 m ²	確認者	加藤 知徳



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.6</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>6.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.4</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{建築面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
				Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境															2.8
1 音環境															3.0
1.1 室内騒音レベル															3.0
1.2 遮音															3.0
1 開口部遮音性能															3.0
2 界壁遮音性能															3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															3.0
1.3 吸音															3.0
2 温熱環境															2.6
2.1 室温制御															3.0
1 室温															3.0
2 外皮性能															3.0
3 ゾーン別制御性															3.0
2.2 湿度制御															3.0
2.3 空調方式															3.0
3 光・視環境															2.8
3.1 昼光利用															3.0
1 昼光率															3.0
2 方位別開口															3.0
3 昼光利用設備															3.0
3.2 グレア対策															3.0
1 昼光制御															3.0
3.3 照度															3.0
3.4 照明制御															3.0
4 空気質環境															3.3
4.1 発生源対策															3.0
1 化学汚染物質															4.0
F☆☆☆☆建材を全面的に使用															3.0
4.2 換気															3.0
1 換気量															3.0
2 自然換気性能															3.0
3 取り入れ外気への配慮															3.0
4.3 運用管理															2.0
1 CO ₂ の監視															3.0
2 喫煙の制御															3.0
Q2 サービス性能															3.2
1 機能性															3.2
1.1 機能性・使いやすさ															3.0
1 広さ・収納性															4.0
一人当たり9.51㎡(社員90名)															3.0
2 高度情報通信設備対応															2.0
3 バリアフリー計画															3.0
1.2 心理性・快適性															3.3
1 広さ感・景観(天井高)															4.0
天井高2,700,十分な窓有り。															3.0
2 リフレッシュスペース															5.0
リフレッシュスペースが執務スペースの3.9%(1%以上)92㎡															3.0
3 内装計画															1.0
1.3 維持管理															3.5
1 維持管理に配慮した設計															4.0
便所に清掃しやすい内装材を採用、ビニル巾木の採用 等															3.0
2 維持管理用機能の確保															3.0
2 耐用性・信頼性															3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振															3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															3.0
2 免震・制震・制振性能															3.0
2.2 部品・部材の耐用年数															3.3
1 躯体材料の耐用年数															3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															4.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															5.0
6 主要設備機器の更新必要間隔															3.0
2.4 信頼性															3.2
1 空調・換気設備															3.0
2 給排水・衛生設備															4.0
節水型器具、エコマーク商品を採用。受水槽にコックあり。															3.0
3 電気設備															3.0
4 機械・配管支持方法															3.0
5 通信・情報設備															3.0

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.4	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	1階階高3.8m、2階階高3.7m 壁長さ比率=0.09	-	4.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.36	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.81	3.0	4.9	0.24	-	-	-	4.9
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.14	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEIm=事務所0.41、工場0.3	3.0	5.0	0.42	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.6
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓・泡沫水栓や節水型便器などを採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.7	0.63	-	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	2.0	0.05	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ネオマフォームを使用(ODP=0 GWP=23)	-	4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		①	-	4.6	0.33	-	-	-	4.6
2 地域環境への配慮			0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		敷地内に駐輪場、駐車スペース、乗入口を複数確保。	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動		独自	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.3	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制		開発許可条件により1ランクアップ	-	4.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害チェックリストを一部満たす。広告物照明がない。	-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(株)竜製作所新工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:6.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)竜製作所新工場

計画上の配慮事項	
総合	環境にやさしく開かれた工場をもつと、フェンス等は設置せず死角を少なくする等安全面にも配慮します。外壁材には吸音及び遮音性の高い材料を使用し、近隣住民への影響を極力抑える事を考慮した工場とします。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙化など空気質環境に配慮した計画としています。
Q2 サービス性能	建物の階高、空間の形状・自由さにゆとりを持たせ、対応性・更新性に配慮した計画としています。
Q3 室外環境(敷地内)	屋外照明を設置などにより、建物外部の防犯性に配慮した計画としています。
LR1 エネルギー	外皮の断熱強化により、建物の熱負荷抑制に配慮した計画としています。また、LED照明の採用等により、エネルギー消費量の削減に配慮した計画としています。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓・泡沫水栓や節水型便器などを採用し、水資源保護に配慮した計画としています。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をした計画としています。
その他	